

令和2年(2020年)11月2日(月曜日)

雷井戸修復 観光資源に

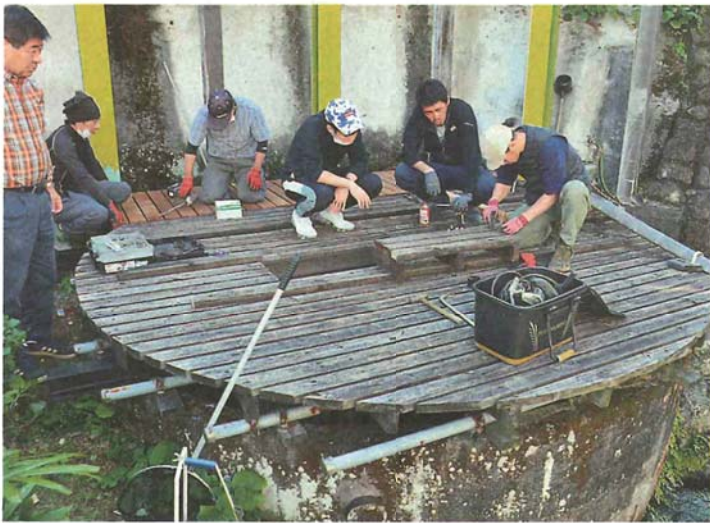
GW三島が活動

かつて「田町水道」として地域に生活用水を供給していた雷井戸（三島市南本町）を観光資源として再生させようと、管理するNPO法人グラウンドワーク三島が老朽化した井戸の修復に乗り出した。歩道も整備して回遊性を高め、源兵衛川や三島梅花藻の里など周辺の水環境と合わせて魅力を発信する。

その昔に雷が落ちて水が湧き出した」との伝説が残る雷井戸は、今も富士山の湧水が絶えず自噴している。直径3㍎、深さ2㍎の大きさで、かつては地元の70世帯が利用した簡易水道の水源地として親しまれていた。民家の脇道から入る奥まった場所にあるため、役目を終えた現在は地元でもあまり知られていないという。

同NPOは23年前に寄付などを集めて買収し、管理を続けている。今回、老朽化した落下防止の井戸のふたを取り外してネットを掛け、自噴する湧

歩道も整備「水の都」発信



雷井戸の修復に取り組む関係者＝三島市南本町

水を眺められるよう見学のデッキと手すりを付けた。井戸から水が流れ出る川には飛び石を設置し、12月までに近くの源

兵衛川から雷井戸を経て三島梅花藻の里に向かう歩道も整備する予定。同NPOの渡辺豊博専務理事は「これまで大きな井戸はなかなか見られない。水の都・三島の観光資源として発信したい」と語る。（三島支局・金野真仁）